



三宅隆介プロフィール

昭和46年3月23日生まれ。
大東文化大学文学部 卒業。ユアサ商事株式会社を経て、
松沢成文(当時・衆議院議員)秘書。
平成15年4月 川崎市議会議員 初当選。[現在4期目]
川崎市多摩区中野島在住。

川崎のイメージを 前向きに変えよう!

公害のまちから 環境先進都市へ

三宅隆介市議は、さきの市議会決算審査特別委員会において「川崎のイメージを前向きに変えよう」と、予算執行にあたり行政側に前向きな対応を求めました。その概要の一部をご紹介します。

Q 三宅隆介市議

昭和63年に大気汚染による地域指定が解除され、平成9年には健康都市宣言を行い、おおむね環境基準を満たしている状況になっています。しかし、いまだに「公害のまち」と言われる現状はどう思いますか。

A 総務企画局長

市民、企業、行政が一丸となって公害対策に取り組んだ結果、現在の大幅な改善が図られましたが、川崎市都市イメージ調査で「公害のまち」が出てくることは残念なことです。このようなイメージを払拭すべく、より一層シティプロモーションに注力してまいります。

昭和63(1988)年3月

- ▶ 国により第一種公害地域指定解除
- ▶ 大気汚染の健康影響の収束

川崎市健康都市宣言

平成9(1997)年3月

- ▶ 事実上の公害克服宣言
- ▶ 全会派一致、反対陳情請願なし

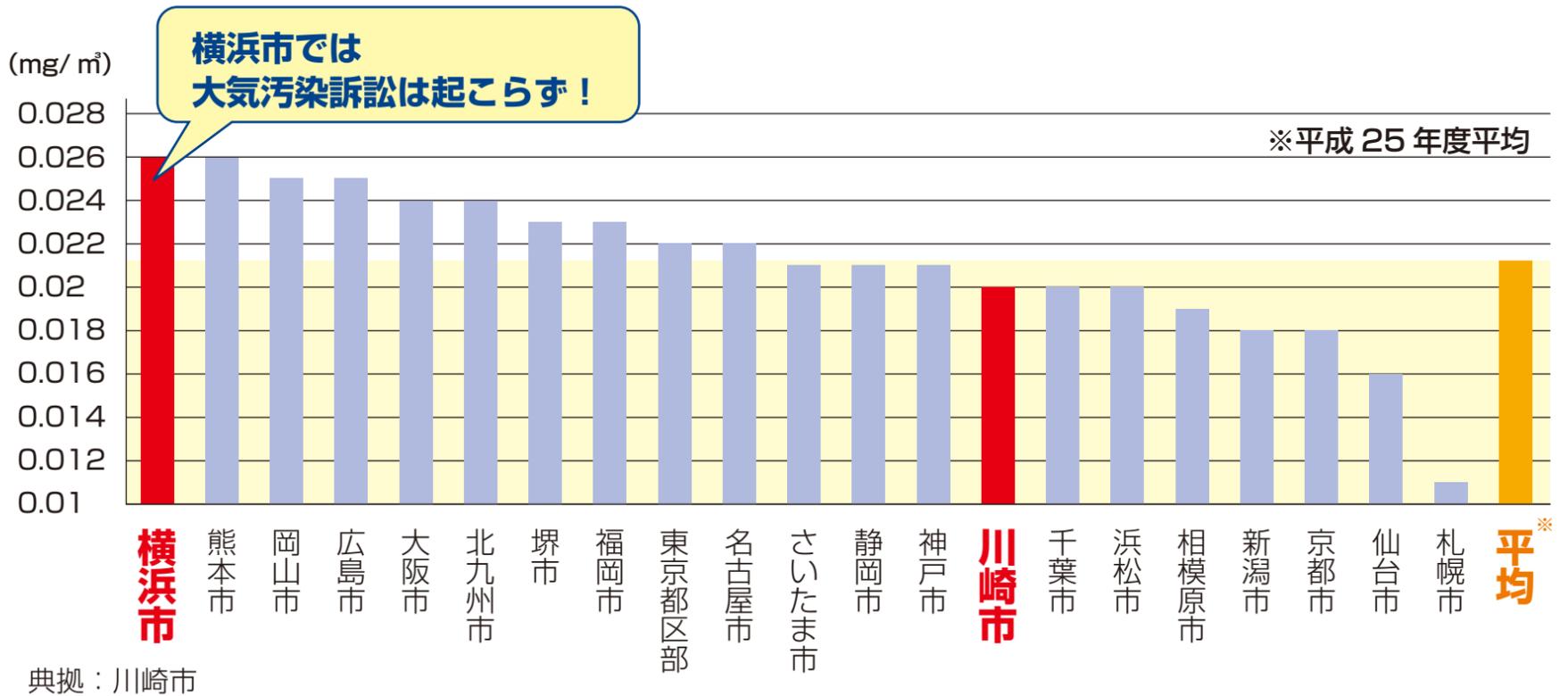
平成10(1998)年8月

- ▶ 川崎大気汚染訴訟地裁判決
- ▶ 原告・被告とも控訴

平成11(1999)年5月

- ▶ 東京高裁で和解成立
- ▶ 川崎市に法的な責務なし

浮遊粒子状物質(SPM)濃度の政令市比較



川崎市はとっくの昔に公害を克服している

Q 三宅隆介市議

川崎市は、公害訴訟では法的な責務はないとの東京高裁での和解が成立していますが、今年の8月にはアゼリアビジョンの動画(公害は克服されたという内容)に苦情の声が起こり、放映が中止されました。

SPM濃度の政令市比較では、横浜市が一番高く、川崎市は全国平均値よりも低い。なぜ、いまだに川崎市だけが「公害のまち」と言われ続けるのでしょうか。

A 環境局長

環境問題はみんなが一丸となって取り組んできた結果、大幅な改善が図られてきました。こうした取り組みで培われた多くの環境技術を活用した国際貢献にも取り組んでまいります。

三宅の視点

隆介の主張

川崎市は8月、JR川崎駅東口側に設置された大型画面(アゼリアビジョン)に、かつての公害を克服した最先端の環境技術を映像化し市政情報として放映していました。

その際、「**企業と行政の努力で公害を克服した**」という表記に対し、「未だ公害は終わっていない」という一部市民からの苦情があり放映が中止されました。

企業と行政だけでなく、市民も一緒になって取り組みを進めてきた、という配慮ある表現が行政として欠如していたものの、事実として公害は既に克服されていますので放映を中止する必要はなかったものと考えます。

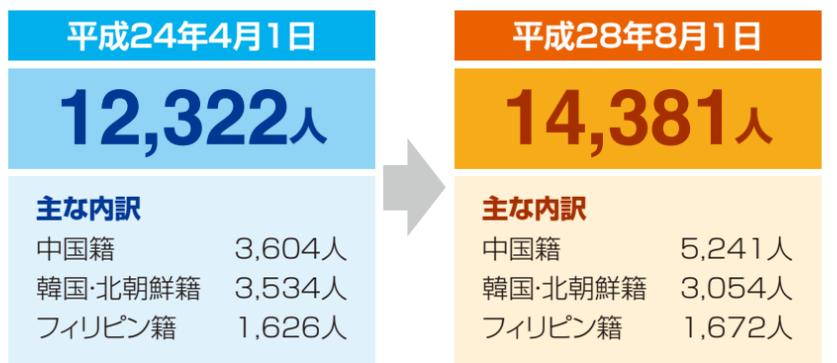
こうした行政の安易な対応が多くの市民に誤解を与えることになります。

委員会で明らかに

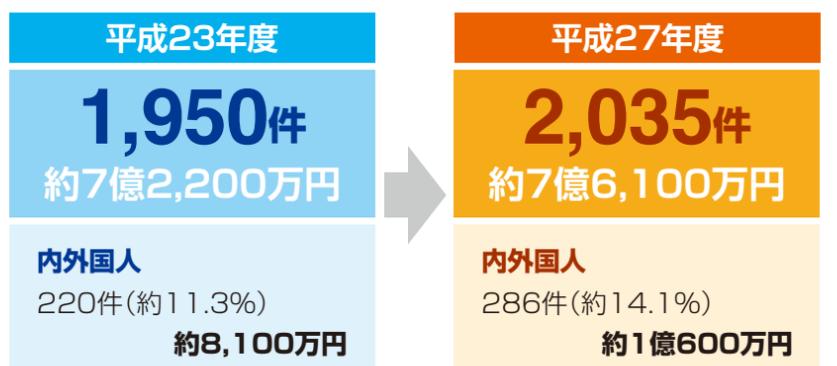
国保事業にも外国人問題が浮上!

決算審査特別委員会(平成28年10月7日)で三宅隆介市議は国民健康保険事業特別会計審議*の中で、次のような現状を明らかにしました。

国民健康保険の外国人被保険者数の推移



出産育児一時金申請件数



三宅隆介 川崎市議会議員は、ほぼ毎日ブログを更新しています。グラフを使ったわかりやすい市政、政治、経済の時事解説です。三宅の発想、隆介の視点で「新しい川崎」を発信中。ぜひ、みなさまのご意見、ご要望をお聞かせ下さい。

ほぼ毎日更新しています!

<http://ryusuke-m.jp/>

スマホにも対応、ホームページを刷新しました

